



古河電池株式会社

～中長期的な成長に向けて～

2017年11月10日
代表取締役社長 小野 眞一

東証一部 証券コード：6937



自己紹介



代表取締役社長
小野 眞一

(1955年4月26日生 62歳)

1978	防衛庁（現防衛省）入庁
1991	当社入社
2007	産業機器事業本部 アルカリ品質保証部長
2009	技術開発本部 企画情報部長
2010	取締役 技術開発本部長
2011	執行役員 技術開発本部長 *
2012	取締役執行役員 技術開発本部長
2014	取締役常務執行役員 技術開発本部長
2016	取締役専務執行役員 技術開発本部長
2017	代表取締役社長（現任）

* 2011年 執行役員制度導入



1 企業情報

2 2017年度上期のニュース

3 これからの古河電池

会社概要

- 商号 古河電池株式会社
(The Furukawa Battery CO., LTD.)
- 設立 1950年（昭和25年）9月
(古河電気工業(株)の電池部門が独立)
- 本社 横浜市保土ヶ谷区星川
- 社長 小野 眞一
- 資本金 16億4,000万円^{*1}
- 売上高 553億2,000万円^{*2}
- 主要事業 鉛蓄電池、アルカリ蓄電池、電源装置 等
- 従業員数 917名^{*3}



*1 2017年3月末現在

*2 2016年度（2017年3月期）連結実績

*3 単体、2017年3月末現在

沿革

1914	古河電気工業(株)、電池製作所を開設
1937	古河電気工業(株)、横浜市へ電池製作所を移転
1950	古河電気工業(株)の電池部門を継承し、古河電池(株)として発足
1970	今市工場 (栃木県日光市) 建設
1978	いわき工場 (福島県いわき市) 建設
1986	エフビー工場 (栃木県日光市) 建設
2002	タイ サイアムフルカワ社を子会社化
2003	世界初 宇宙用リチウムイオン電池開発。小惑星探査機「はやぶさ」に搭載
2013	インドネシアに合併会社 (FIBM社) 設立
2014	世界初 紙製容器でできた非常用マグネシウム空気電池「MgBOX」発売
2015	インドネシア 自動車用鉛蓄電池工場完成
2016	ベトナムのバッテリーメーカー(PINACO社) の株式取得
2017	首都大学東京と次世代リチウムイオン電池開発会社(株)ABRI設立



歴史！ ものづくり！ 技術力！ 海外展開！

蓄電池業界について

2020年 世界全体の蓄電池市場規模：20兆円*

■ 世界の主な鉛蓄電池メーカー

※ 本社所在地ベース



*出典：2012年7月「蓄電池戦略」（経済産業省 蓄電池戦略プロジェクトチーム）

主要製品ご紹介



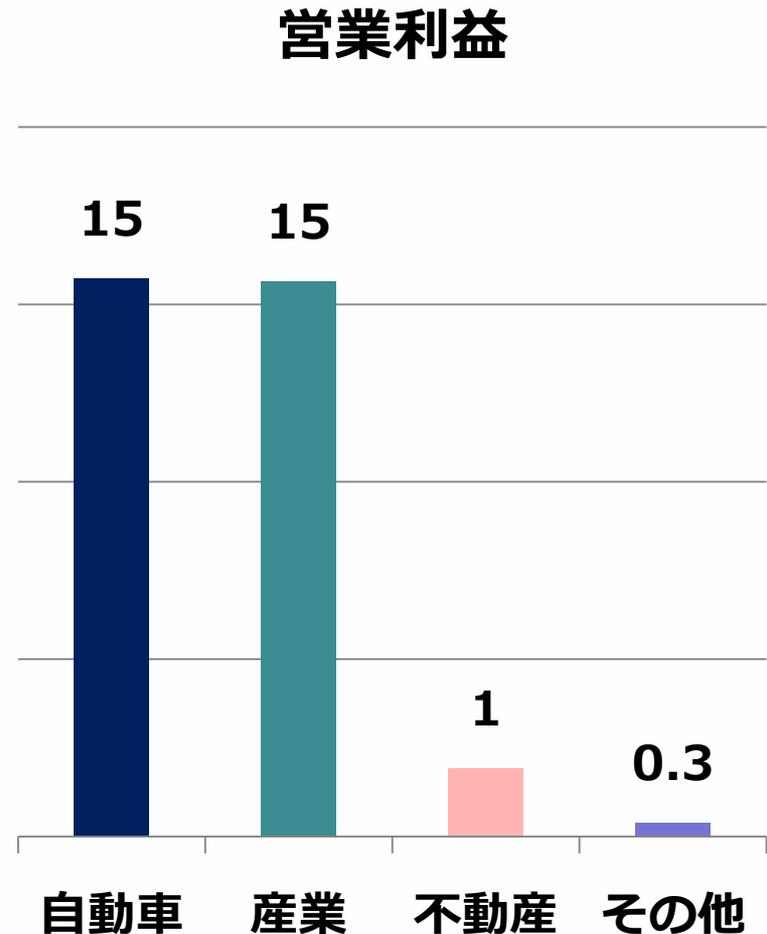
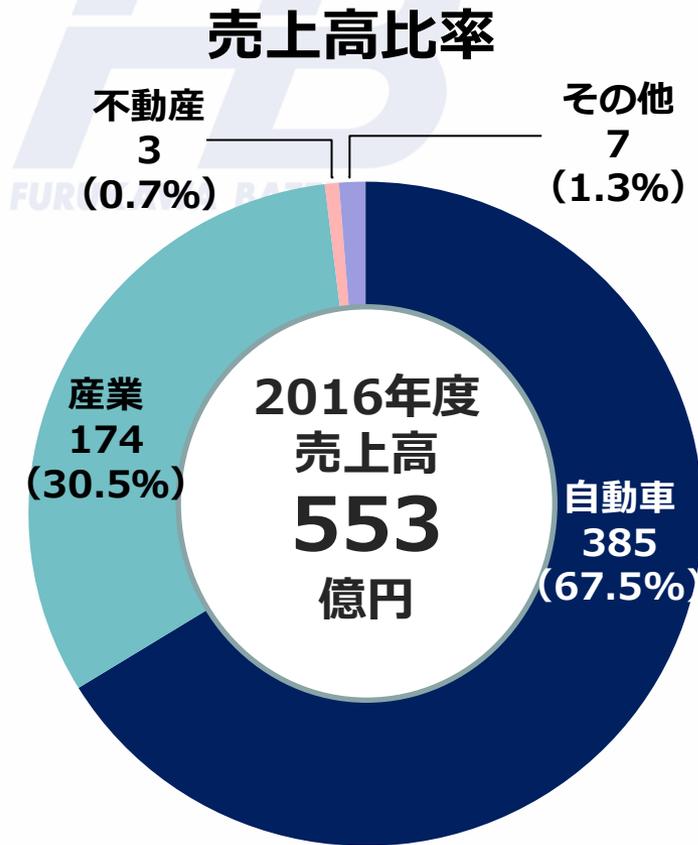
自動車用バッテリー



産業用蓄電池・電源装置

セグメント別業績

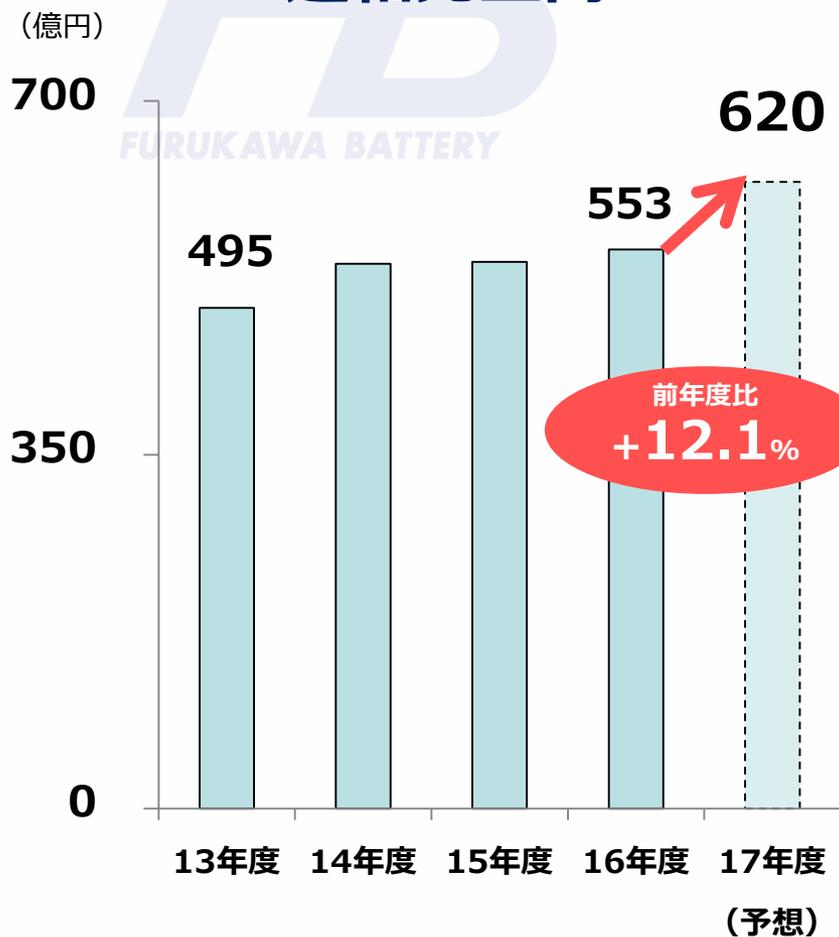
(億円)



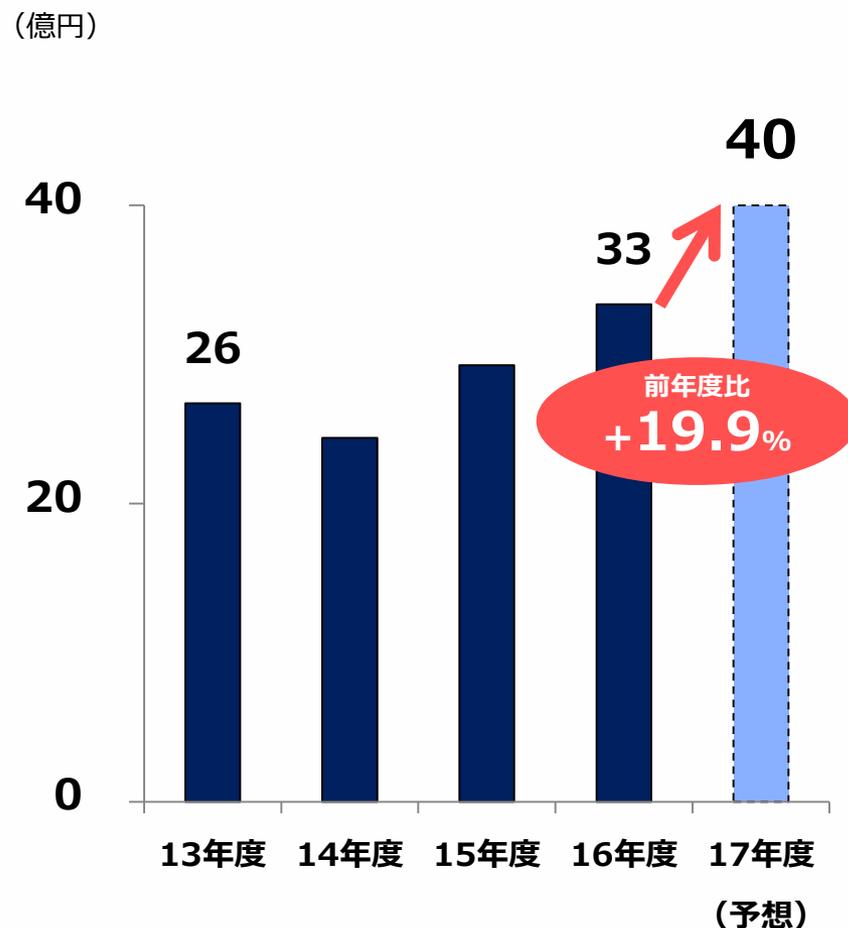
* セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含みます。

業績の推移

連結売上高



連結営業利益



国内拠点



海外展開の状況

インド【技術支援】

Exide Industries Limited

自動車用/二輪車用

中国【技術支援】

青島亜通达铁路设备有限公司 (ATD)

鉄道車両用(アルカリ)

山东圣阳电源股份有限公司 (Sacred Sun)

産業用鉛

Inter Far East Wind International CO., LTD.

(アイwind : I-WIND社)

タイで風力発電ビジネスを展開。
タイ国内初蓄電システムの構築に
当社のUltraBatteryを採用

ベトナム【資本提携】

Dry Cell and Storage Battery Joint Stock Company
(ドライセルアンドストレージバッテリー : PINACO)

16年9月に株式取得。Vietnam National Chemical Group(国営)
に次ぐNo.2株主に

タイ【連結(完全)子会社】



SIAM FURUKAWA CO., LTD.

(サイアム・フルカワ社 : SFC)

自動車用電池の販売が堅調に推移
連結業績の増収・増益に寄与
借入金なしの健全な経営状況

インドネシア【連結子会社】



PT. FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY MANUFACTURING

(フルカワ インドモービルバッテリー マニュファクチャリング : FIBM)

2015年2月 新工場竣工。サリム財閥と提携。販売網の拡充に注力中



1 企業情報

2 2017年度上期のニュース

3 これからの古河電池

上期のニュース 1



株式会社ABRI（エイブリ）設立

首都大学東京発ベンチャーとして次世代リチウム電池開発を行う

上期のニュース 2



2017年 ガストン・プランテ・メダル受賞

古川 淳 シニア・フェローが鉛蓄電池の研究・技術・開発の発展に
最も貢献した研究者として受賞

上期のニュース 3



「第3回社会的価値・資本創出型M&Aアワード」で 「特別賞」を受賞

ベトナムの蓄電池メーカー（PINACO社）の株式取得が
同国の環境・社会課題解決に貢献する点が高く評価



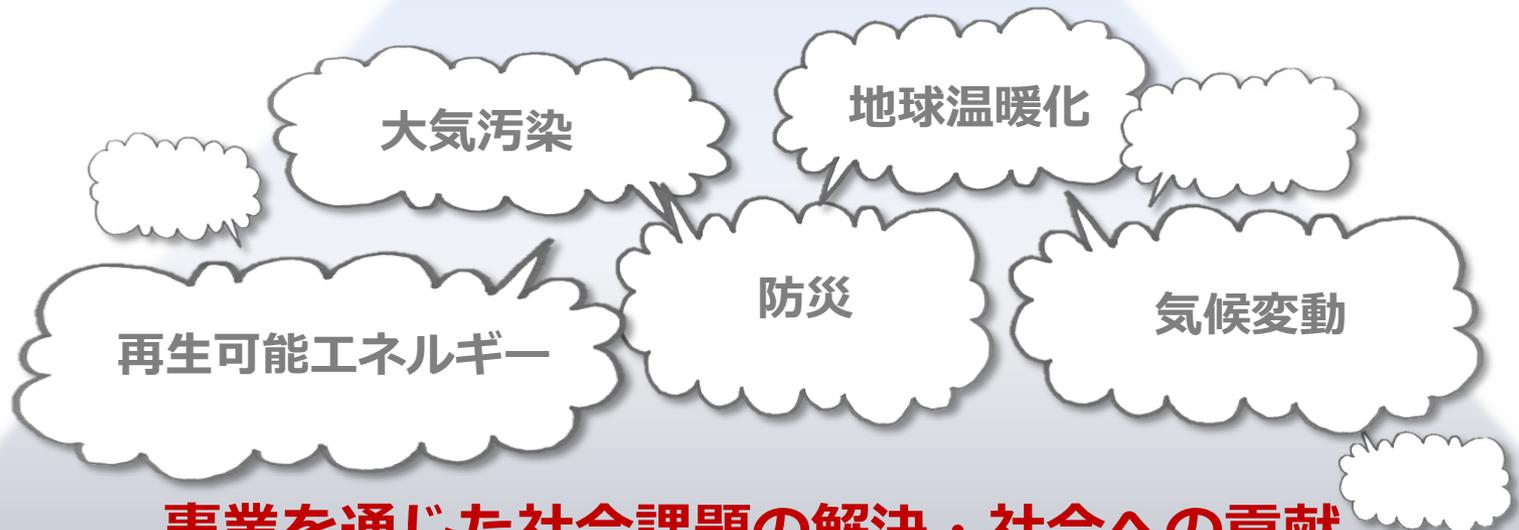
1 企業情報

2 2017年度上期のニュース

3 これからの古河電池

企業使命

蓄える力、動かす力、見守る力で社会を支える



事業を通じた社会課題の解決・社会への貢献

長期ビジョン

PHASE I

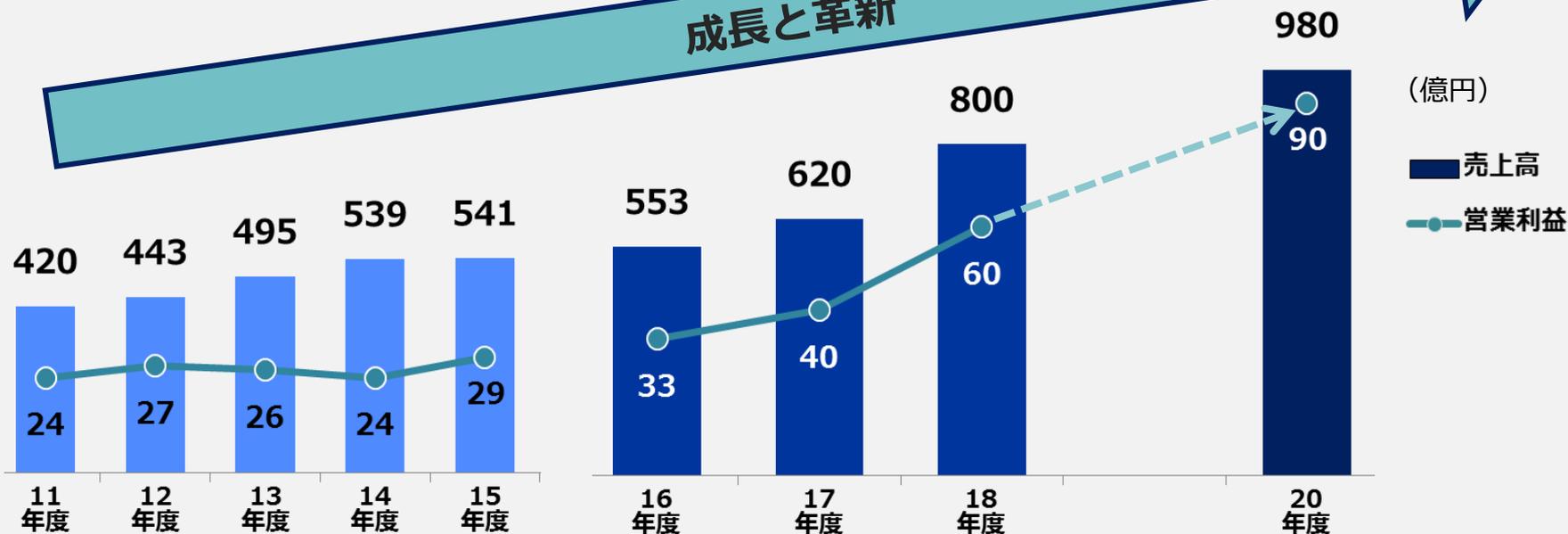
PHASE II

長期ビジョン
Dynamic Innovation 2020

足元固めの5年（～2015）

打って出る5年（～2020）

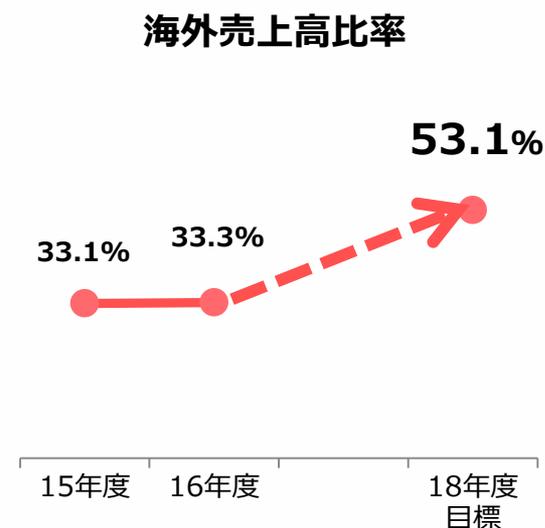
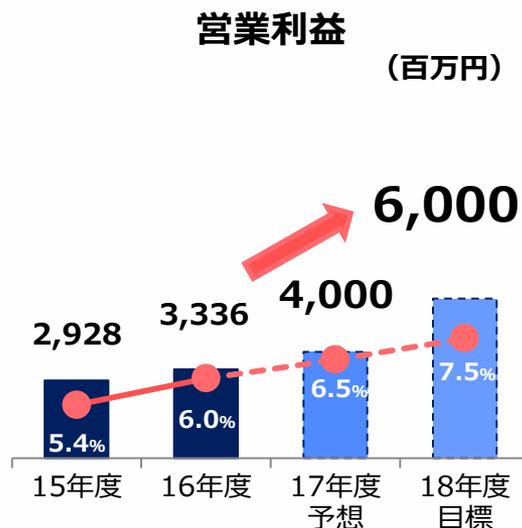
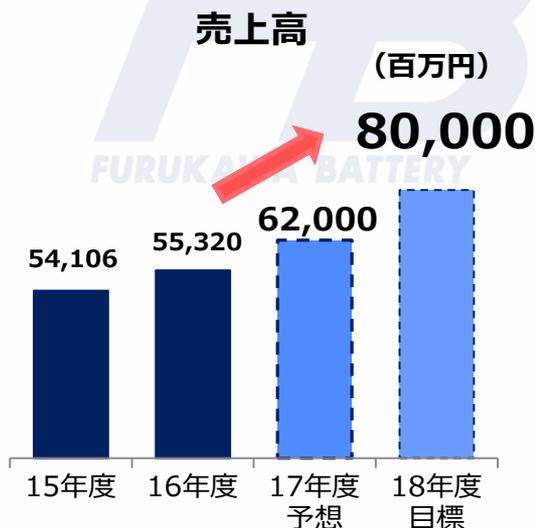
成長と革新



2018年中期ビジョン(16-18年度)は長期ビジョンの試金石

2018年中期ビジョン(16-18年度)

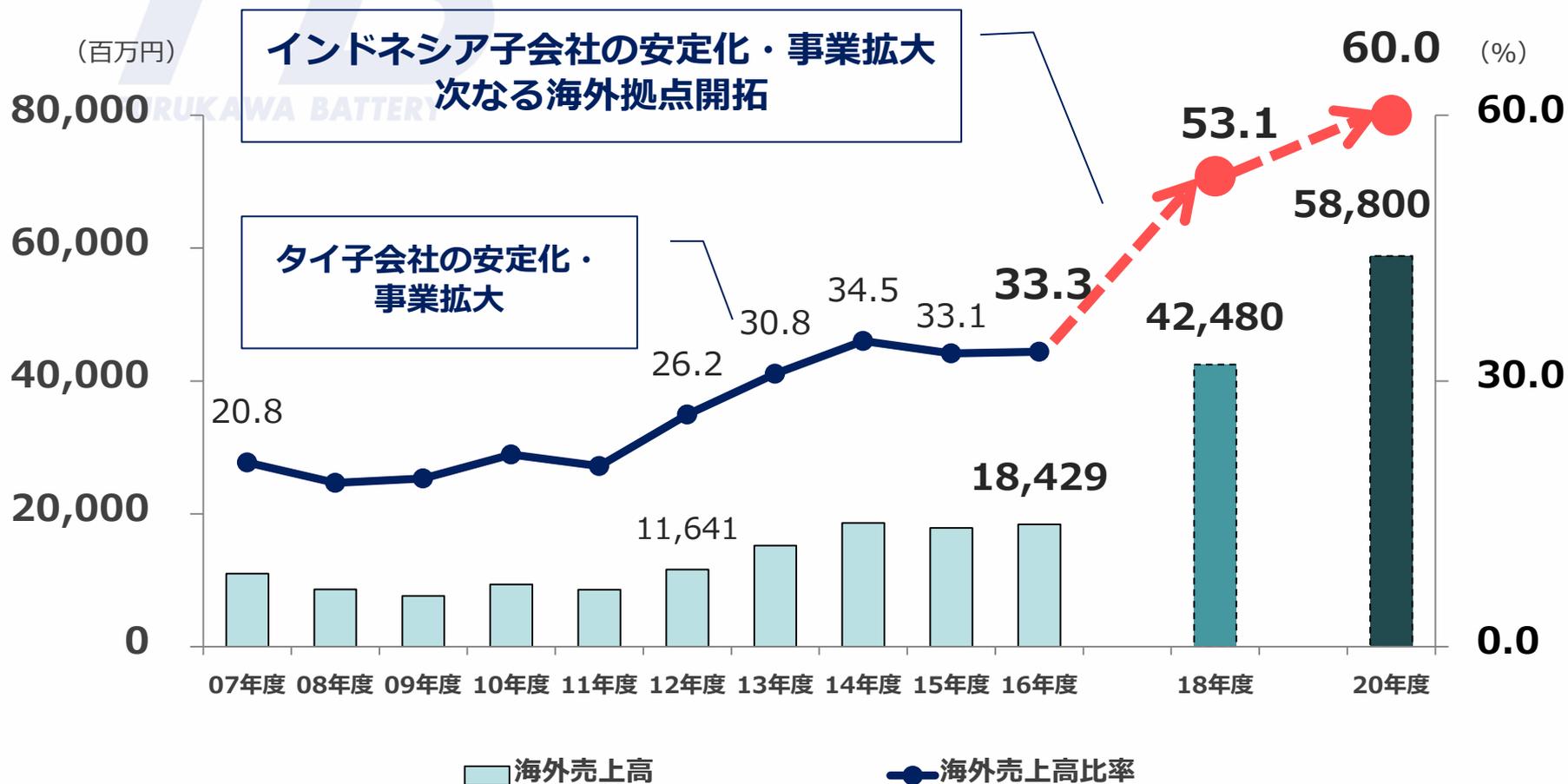
■ 主要経営指標



■ 拡大へのキーワード

- ・ 事業拡大による売上増 (新製品、新規市場、**海外**)
- ・ 効率化と合理化による利益率増 (集約、コスト削減)
- ・ **海外**拠点拡大による**海外**売上高比率増 (拠点能力拡大、新拠点)

海外売上高の推移



17年度は拡大への過渡期

足元固めの5年

11~15年度

打って出る5年

16~20年度

• 海外事業拡大

- ✓ タイ子会社での継続的な生産体制増強
- ✓ ベトナム ピナコ社の株式取得(16年9月)・関係強化



• 国内事業の強化

- ✓ いわき新工場における補機バッテリー安定量産
- ✓ 今市地区拡大整備への着手
- ✓ 針貝工場での蓄電実証システム構築



- 足もとの業績に寄与している事項

成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">• HV用補機バッテリー量産安定化、収益寄与• 自動車バッテリー製品ミックス改善（IS、補機比率UP）• ベトナム PINACO社の株式取得、関係強化• 今市事業所の改革着手 <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">さらなる生産効率向上 改革スピードUP</p>	<ul style="list-style-type: none">• インドネシア子会社の成長• タイでの成長率の伸び• 新製品売上高比率の伸び• 再生可能エネルギー関連市場へのアプローチ <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">優先的に対応・改善を加速</p>

補機バッテリーの安定・効率生産

■ いわき新工場での安定生産

- HV車の定期車検での交換需要に対応
- ディーラー向けチャンネルに強み

ハイブリッド車を、より快適・安全に！
専用排気構造・防爆フィルター（当社独自技術）を採用

ECHNO
エクノHV

※トヨタ系ハイブリッド車専用



17年5月
発売

ECHNO
エクノ EN

HV 通常車
どちらにも
搭載OK!



インドネシア 早期に成長軌道へ

■ 販売数量、生産体制、品質確保の水準達成に向けた 具体的取り組み

－ しくみ改善

- 生産計画や資材発注、出荷・在庫管理の精度向上
- 生産ルールの徹底、変化発生時対応ルールの明確化
- システム利活用による業務迅速化・管理強化

－ ローカルスタッフへの教育・理解定着

- 新しいしくみに基づく指示による業務遂行を早期実現
- 予実管理の徹底、差異の確認徹底
- 営業スタッフ インセンティブ効果確認
- 店頭サポート、販売支援
- スキルアップに向けた教育・育成強化



タイ 設備増強を背景に成長モメンタム維持

■ 市場や為替変動によるインパクト低減し、持続的な成長軌道へ

➤ これまでの設備増強

年	件名	効果（投資前比）
2012	パンチング ^{*1} 設備	鉛量削減160t/年
2012-2015	新充電工程1-4期	能力増強160%
2016	新充電工程5-6期	能力増強115%
	新充電工程 トータル	175%
2013	二輪用電池組立新ライン	能力増強130%
2014	四輪用電池組立新ライン	能力増強130%
2014	四輪用電池新出荷ライン	能力増強140%
2015	ボールミル ^{*2} 増設	能力増強130%
2015	化成工程 ^{*3}	能力増強110%

- ・ 今後も新充電工程や化成工程の増強を継続 ⇒生産能力・効率Up

*1 パンチング：自動車用鉛蓄電池極板の打抜製法 *2 ボールミル：鉛塊から微細な鉛粉を作る装置 *3 化成工程：極板のみを充電状態にする工程

再生可能エネルギー関連市場への対応

■ 針貝(日光市) 多並列型蓄電システム

- 蓄電システムの大容量化
- 充放電エネルギー効率Up
- 安全性確保



300 kWシステム
(UB-1000×168s×2p)

20 kWシステム
(FCR-50-12×16s×10p)



将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 為替相場の変動による影響
- ・ 主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・ 海外における政治的および社会的リスク
- ・ 取引先の業績悪化等
- ・ 自然災害の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

(注) 当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。年度表記について、15年度は2016年3月期、16年度は2017年3月期（以下同様）を表しています。

蓄える力、動かす力、見守る力で社会を支える

FB 古河電池株式会社